

アフリカにおける学際的・共同的研究の可能性を議論

ユネスコ・パートナーズ・フォーラム

ユネスコチェアとして初参加

国連教育科学文化機関(ユネスコ)とさまざまなパートナーとの協力のあり方を議論する「ユネスコ・パートナーズ・フォーラム」が9月30日～10月2日にアフリカ連合本部(アジスアベバ)で開催され、総合人間科学部教育学科の杉村美紀教授とSophia Future Design Platform推進室の山崎瑛莉U E A (University Education Administrator)が参加した。今年、Transforming Knowledge for Africa's Futureをテーマに、アフリカにおける学際的・共同的研究を強化する目的で開催。約400人もの関係者が一堂に会した。杉村教授を責任者とする「平和と持続可能な社会を実現するための教育と研究

の推進」を目的とした本学の研究プロジェクトがユネスコに採択され、今年2月にユネスコチェアとして認定されてから初めての参加となる。

開会式ではサーレワーク・ゼウデ エチオピア連邦民主共和国大統領(当時)が挨拶を行い、本フォーラムを地域という観点からみたグローバル教育の必要性を考える機会だと強調。SDGsやアフリカのアジェンダ2063に基づき、個人をエンパワーし、イノベーションを促進して、地域のニーズに応えられる教育の枠組みを形成することを目指した議論に期待を寄せた。

本学は、杉村教授の進行のもと、特にSDGsにおける「ゴール4:教育目標の達成」に向けて具体的な活動を行っているユネスコチェアの他大学機関と共にその活動を共有し、アフリカにおける持続可能な未来のためのプラットフォーム形成に関する議論を行った。

また、会期中および滞在期間中には、各国際機関関係者との面会を通じ、本学のユネスコチェアとしての取り組みやグローバル教育の展開につい



上智大学セッションのプレゼンター・参加者



開会式会場(アフリカ連合本部)の様子

て報告・共有を行うなど、今後のさらなる協力関係について意見を交換した。今回の会議参加を契機に、今後もステレンボッシュ大学やヨーク大学、

マレーシア国際イスラーム大学などのユネスコチェア大学間の連携や共同研究などを通じて、ユネスコチェアとしての活動をさらに展開していく。

ソフィア・アントレプレナーシップ・ネットワーク(SEN)事業開始

社会課題解決に向けた実践力を身につける

本学では、社会課題解決に挑む実践的なスキルやマインドセットを学ぶ機会を提供することを目的として、11月よりソフィア・アントレプレナーシップ・ネットワーク(SEN)事業を開始した。起業意思の有無にかかわらず、社会貢献に必要とされるアントレプレナーシップ教育を通して、学生に挑戦力・企画立案力を養う機会を提供していく。

本事業の開始を記念し、全世界同時に毎年開催されている「グローバル・アントレプレナーシップ・ウィーク」を11月18日～19日にかけて日本で初めて開催。各業界で活躍中の卒業生を招いたパネルディスカッションや、ソニー株式会社元社長の安藤国威氏の特別講演会が行われた。

実業家として数々の事業を率いた安藤氏は「学生時代にアントレプレナーシップを身につけることは、将来のキャリアを形成するうえで非常に重要である。そのうえで、リーダーはメンバーの年齢や経験にとらわれず、個性を生かした役割を与えることで、プロジェクトを成功に導くことができる」と話し、社会課題解決に挑む学生にエールを送った。

また、先行して昨秋から開講している、投資運用会社スパークス・グループ株式会社協力による全10回のアントレプレナーシップ養成講座をはじめとする実践スキル系プログラムのほか、社会課題定義・解決型のワークショップ、活躍中の卒業生などのアント



卒業生を招いたパネルディスカッション



ソニー株式会社元社長の安藤国威氏

レプレナーとのネットワーキングを目的としたマインドセット系プログラムを予定。上智大学生であれば、学部や学年を問わず受講可能だ。

本事業を統括するSophia Future Design Platform推進室の川瀬崇事務局長は「学長をはじめ、多様なアントレプレナーを含めた外部有識者で構成される運営体制のもと、変化の激しい世界の現実を直視し、社会貢献や経済成長に繋がるより良い世界を目指していくための経験・機会提供と人材育成を進めていく。学生それぞれが志向するキャリアや将来見据えるビジョンに沿って、本プログラムを活用してほしい」と話している。

杉村美紀教授が次期学長に決定 創立以来初となる女性学長

現学長の任期満了に伴う次期上智大学長の選任について、本学などを運営する学校法人上智学院は、9月30日の理事会で、杉村美紀教授(総合人間科学部教育学科)を次期学長とすることを決定した。大学創立以来、初の女性学長の就任となる。任期は2025年4月1日から29年3月31日までの4年間。

上智学院では、16年1月に「上智大学長の選任に関する規則」を改正し、学長選出方法を変更した。同改正によって、候補者選考委員会委員に加え、教職員も学長候補者を推薦できるようになった。候補者選考委員会がこれらの被推薦者の中から対象者を絞って面接を実施し、最終的に学長候補者2人を選定した。

その後、教職員が候補者を評価する「学長候補者に係る調査」が行われ、その結果を理事会が参考にして、次期学長を選定した。

杉村教授は、1962年生まれ、62歳。85年お茶の水女子大学文教育学部教育学科卒。87年東京大学大学院教育学研究科学校教育学専攻修士課程修了。92年同専攻博士課程



杉村美紀教授

単位取得満期退学。98年12月博士(教育学)の学位を取得(東京大学)。専門は比較教育学、国際教育学、多文化教育論。

本学文学部教育学科専任講師を経て、07年より総合人間科学部教育学科准教授。13年同教授。これまでに学術交流担当副学長、グローバル化推進担当副学長などを歴任。

ユネスコが世界の知の交流と共有を図るために認定する「ユネスコチェア」に採択された本学の研究プロジェクトを牽引するほか、学外ではJICA緒方貞子平和開発研究所の客員研究員や国連大学サステナビリティ高等研究所の客員教授なども務めている。